

## 「仕事は楽しく、人生も楽しく」考

総務庁行政管理局行政情報システム企画課長

橋口 典央

### 【実践方策】

新たな職場での赴任の挨拶で、「仕事は楽しくやりたいと考えています。」と言うことが多かった。これに反対する人はおそらくいないと思っていた。

ところが、次のような反論を受けたのである。「膨大な業務を課せられ、毎日毎日夜中帰り。休日出勤もざらなのに、何が仕事は楽しくだ。冗談じゃない。」と。

これには参った。もつともだと思ふのである。ひどい勤務状況にあることは間違いない。そしてこれを解消し、仕事が楽しいといった環境にしようとするれば、大幅な仕事減らしか、大幅な人員増しかない。それがかなわぬことならば、「仕事は楽しく」などと軽々に言うべきことではないな、と、思ってしまった。

上司は、極めての切れ者である。大体難しい顔をしていて、優しい言葉はめったにかけない。「仕事は楽しく」などとは絶対言わない人と思う。

そのかわり(?)、まことに的確な指示をする。「それはこうなのだから、あれに当たれ。」「誰々に会って、こういうことを聞いてこい。」「資料はこういうものを作れ。」「俺には一々上げなくてよい。だがうまくいかななくなったら早く言え。」「仕事は納期と品質だ。いついつまでにやってしまえ。」などなど。

厳しいのだが一々尤もなことを言う。だからこそ我々は、大変ながらも安心して打ち込

むことができる。なるほど、仕事を楽しみたいのならば、このような能力を持って、部下のやっている仕事を裁き、その方向を示して、部下に断行させていくことが必要なのだと思う。

そのような能力がないのであれば、「仕事は楽しく」などとは、人前で言うことではないのだろう。自分自身への戒めの言葉とするしかないではないか。

そして、自分にできることと言えば、「仕事に押しつぶされそうな辛いときでも、いかにも楽しそうに仕事をする事」であろうと思うのである。それが無理なら、もうその仕事はやめてしまった方がよいだろう。なぜなら、仕事は、自分の人生を楽しく豊かにするためにやるものだと思いつけていたから。

### 【多病息災】

「あっ、いかん」と思ったときは遅かった。痛くなるなどの確実な予感が走った。その旨を告げ、「誰か代わりの人を」とお願いして、テニスコートを出た。

4か月前にも同じようなことがあった。その時も寝返りさえできないくらい痛くなったが、一夜明けたら和らいだ。医者にも行かずほったらかして、一週間で元に戻った。安静にしていればこわいものではないと思った。

一夜明けたが、痛みで体が動かない。家内に引っ張られて、整形外科をたずねた。「テ

ニスをやっている、すべったんです。腰にぎくつときで……」「とにかくレントゲンをとってみましょう。」

「腰椎分離症があります。若い頃スポーツをやり過ぎたんじゃないですか。くつついているべき骨が離れている、その周りを筋肉が覆っているのだが、それが疲労しての痛みだと思います。腰椎分離症が直接の原因とは思えないが、筋肉が疲労しやすい環境になっていることは確かです。」「ぎっくり腰とは違うんですか。」「その一種と思ってもらってもいい。まあ、鎮痛剤とコルセットをあげるから、しばらく様子を見てください。」「安静以外、特に治療法はないということですか。」「筋肉疲労であり、老化でもあります。腰椎分離は最早どうにもならんでしょう。一週間しても痛みがとれなければ、またいらっしやい。」

痛風予備軍と言われる高尿酸血症と診断され、一日欠かさず薬を飲むようになって19年になる。「無病息災と言うが、むしろ一病息災なのであって、一つ病気を持っておればこそ健康管理に気を使う。結果的によいことだ。」とは、一生薬をやめられないと言われたときのショックを慰めてくれた先輩の言葉だ。

ところがその後人生の折り返し点を迎えるにつれ、一病どころかいろんな病気が加わってきた。「頸部脊椎のずれによる神経圧迫に伴う後頭部のしびれ」, 「飛蚊症」, 「胆嚢ポリープ」など、7つを数えた。

いずれも最早正常化、原状回復を期待できないもの、そして人間ドックの評価で言えば経過観察を要するものだ。いかにしてこれ以上ひどくならないようにするか、少しずつ悪化していくそのスピードをいかにして遅らせるか、の対処療法しか望めないと言われて

いる。そしてこれらに、また一つ加わった訳だ。

「足らざるを数えるな、与えられたものを数えて感謝せよ。」と言う。そのとおりに思う。けれども、時にはこうして数え上げて、これから自分が生きていく間逃れられず、うまくつきあっていくしかないものをたくさん抱えていることを自覚することも必要なのではないかと思う。そして、それは人生を楽しむための知恵と勇気を鍛えてくれるのではあるまいか、と言いつつ聞かせている昨今である。